【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成17年9月29日(2005.9.29)

【公表番号】特表2004-536108(P2004-536108A)
【公表日】平成16年12月2日(2004.12.2)
【年通号数】公開・登録公報2004-047
【出願番号】特願2003-510069(P2003-510069)
【国際特許分類第７版】
　Ａ６１Ｋ　31/216
　Ａ６１Ｋ　 9/14
　Ａ６１Ｋ　47/02
　Ａ６１Ｋ　47/04
　Ａ６１Ｋ　47/10
　Ａ６１Ｋ　47/12
　Ａ６１Ｋ　47/14
　Ａ６１Ｋ　47/18
　Ａ６１Ｋ　47/20
　Ａ６１Ｋ　47/30
　Ａ６１Ｋ　47/32
　Ａ６１Ｋ　47/34
　Ａ６１Ｋ　47/36
　Ａ６１Ｋ　47/38
　Ａ６１Ｐ　29/00
【ＦＩ】
　Ａ６１Ｋ　31/216
　Ａ６１Ｋ　 9/14
　Ａ６１Ｋ　47/02
　Ａ６１Ｋ　47/04
　Ａ６１Ｋ　47/10
　Ａ６１Ｋ　47/12
　Ａ６１Ｋ　47/14
　Ａ６１Ｋ　47/18
　Ａ６１Ｋ　47/20
　Ａ６１Ｋ　47/30
　Ａ６１Ｋ　47/32
　Ａ６１Ｋ　47/34
　Ａ６１Ｋ　47/36
　Ａ６１Ｋ　47/38
　Ａ６１Ｐ　29/00

【手続補正書】
【提出日】平成16年2月26日(2004.2.26)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】

アセクロフェナック、高分子基剤としてのポリビニルピロリドン及び界面活性剤を含有する経口用製剤。
【請求項２】
前記製剤が、アセクロフェナック、高分子基剤としてのポリビニルピロリドン及び界面活性剤を含む溶液を噴霧乾燥または溶解乾燥(共沈)させて得られることを特徴とする、請求項１に記載の製剤。
【請求項３】
前記界面活性剤が、ラウリル硫酸ナトリウム及びその誘導体、ポロクサマー及びその誘導体、ラブラフィル(labrafil)、ラブラファク(labrafac)、ポリソルベート、ソルビタンエステル、クレモフォア(cremophor)、中間鎖トリアシルグリセリド（ＭＣＴ）、ＰＥＧ－６０水素化キャスターオイル、ＰＥＧ－４０水素化キャスターオイル、ラウリルグルタミン酸ナトリウム、ココアンホジ酢酸ジナトリウム及びこれらの混合物からなる群から選択されることを特徴とする、請求項１または２に記載の製剤。
【請求項４】
前記界面活性剤が、ラウリル硫酸ナトリウム及びその誘導体、ポリソルベート、ソルビタンエステル及びこれらの混合物からなる群から選択されることを特徴とする、請求項３記載の製剤。
【請求項５】
前記界面活性剤が、ラウリル硫酸ナトリウム、ツイーン２０、ツイーン４０、ツイーン６０、ツイーン８０及びこれらの混合物からなる群から選択されることを特徴とする、請求項３に記載の製剤。
【請求項６】
前記製剤が、脂肪酸または脂肪酸アルコール、オイル、抗酸化剤からなる群から選択された一つ以上をさらに含むことを特徴とする、請求項１～５のいずれかに記載の製剤。
【請求項７】
前記脂肪酸または脂肪酸アルコールが、オレイン酸、ステアリルアルコール、ミリスチン酸、リノール酸、ラウリン酸、カプリン酸、カプリル酸、カプロン酸及びこれらの混合物からなる群から選択されることを特徴とする、請求項６に記載の製剤。
【請求項８】
前記脂肪酸または脂肪酸アルコールが、オレイン酸であることを特徴とする、請求項７に記載の製剤。
【請求項９】
前記抗酸化剤が、ブチル化ヒドロキシトルエン、重亜硫酸ナトリウム、α-トコフェロール、ビタミンＣ、β-カロチン、パルミチン酸アスコルビル、酢酸トコフェロール、フマル酸、ナリック酸(nalic acid)、ブチル化ヒドロキシアニゾール、没食子酸プロピル及びアスコルビン酸ナトリウムからなる群から選択されることを特徴とする、請求項６～８のいずれかに記載の製剤。
【請求項１０】
前記製剤が、アセクロフェナック56～84重量部、高分子基剤としてのポリビニルピロリドン112～168重量部、界面活性剤56～168重量部を含有することを特徴とする、請求項１～９のいずれかに記載の製剤。
【請求項１１】
前記製剤が、アセクロフェナック56～84重量部、高分子基剤としてのポリビニルピロリドン112～168重量部、ラウリル硫酸ナトリウム56～84重量部、ツイーン８０ 15～20重量部、脂肪酸または脂肪酸アルコール15～20重量部、酸化防止剤0.15～0.20重量部を含有することを特徴とする、請求項６～１０のいずれかに記載の製剤。
【請求項１２】
前記製剤が、30～150mgのアセクロフェナックを含有することを特徴とする、請求項１～１１のいずれかに記載の製剤。
【請求項１３】

前記製剤が、40～70mgのアセクロフェナックを含有することを特徴とする、請求項１～１２のいずれかに記載の製剤。
【請求項１４】
前記製剤が、固形粉末、圧縮粒子、顆粒、錠剤、カプセル剤または半固形であることを特徴とする、請求項１～１３のいずれかに記載の製剤。
【請求項１５】
前記製剤が、カプセル剤であることを特徴とする、請求項１４に記載の製剤。
【請求項１６】
前記製剤が、アセクロフェナック、高分子基剤としてのポリビニルピロリドン及び界面活性剤を、親水性溶媒または親水性溶媒と水との混合物に溶解し、次いで溶液を乾燥することによって、投与形態に製剤されることを特徴とする、請求項１～１５のいずれかに記載の製剤。
【請求項１７】
前記製剤が、アセクロフェナック、高分子基剤としてのポリビニルピロリドン及び界面活性剤を、親水性溶媒または親水性溶媒と水との混合物に溶解し、次いで溶液を乾燥し、これを粉砕して、さらに、圧縮粒子、顆粒、カプセル剤または錠剤に製剤することによって、投与形態に製剤されることを特徴とする、請求項１～１５のいずれかに記載の製剤。
【請求項１８】
前記親水性溶媒が、アセトン、エタノール及びこれらの混合物からなる群から選択されることを特徴とする、請求項１６または１７に記載の製剤。
【請求項１９】
アセクロフェナック、高分子基剤としてのポリビニルピロリドン及び界面活性剤を含む混合物を、親水性溶媒または親水性溶媒と水との混合物に溶解する工程、次いで溶液を乾燥する工程、および固形粉末製剤を得る工程を含む、請求項１に記載の製剤の製造方法。
【請求項２０】
アセクロフェナック及び界面活性剤を含む混合物を製粉してよく混和する工程、これに高分子基剤としてのポリビニルピロリドンを加える工程、粘液状に製造することによって半固形製剤を得る工程を含む、請求項１に記載の製剤の製造方法。
【請求項２１】
前記混合物が、脂肪酸または脂肪酸アルコール、および酸化防止剤をさらに含むことを特徴とする、請求項２０に記載の方法。
【請求項２２】
前記混合物が、アセクロフェナック56～84重量部、高分子基剤としてのポリビニルピロリドン10～168重量部、ラウリル硫酸ナトリウム56～84重量部、ツイーン８０ 50～160重量部、脂肪酸または脂肪酸アルコール50～160重量部、酸化防止剤1.5～2.0重量部を含有することを特徴とする、請求項２１に記載の方法。